

<b>宗教名</b>	<b>イスラーム教</b>
<b>信仰者人口</b>	約20億人(2022)
<b>信仰者が多い国・地域</b>	中東、南西アジア、中央アジア、東南アジア、北アフリカ、西アフリカ諸国に多いが、移民として世界中に広がっており、イスラーム教徒のいない国はほぼない。
<b>文化社会的特徴</b>	
<b>基礎知識</b>	イスラーム教徒（ムスリム）は、聖クルアーン（コーラン）に記された神（アッラー）の言葉を生活の基盤としている。コーランに書かれているのは、預言者ムハンマドが聞いた神の言葉そのものであり、その日常生活での実践例がハディース（ムハンマド言行録）に示されている。コーラン、ハディースおよびイスラーム法（シャリーア、国の法律より優先する場合あり）がムスリムの日常生活の規範となっている。
<b>1. 食文化のタブー</b>	<p>イスラーム教においては、食事に関する詳細な規律がある<sup>1)</sup>。禁忌（ハラーム）は後述するが、食してよい鶏肉や牛肉でも、定められた手順で屠られ祈りを捧げられたもの（ハラール）<sup>1)</sup>であることが望ましい。ただし、禁忌の順守行動は国や地域、また個人の信仰によって異なるため、個別に確認を要する。このほか、食事には清浄とされる右手を使うため、左手での食事介助等は控えた方がよい。</p> <p>■豚肉及び関連製品 豚肉は最大の禁忌であり、「豚」と発言してもいけない。豚肉そのものだけでなく、豚由来のスープ（粉末を含む）、ゼラチン、コラーゲン、ラード等も含まれ、豚革製品も禁忌である。また、豚肉を扱った調理器具や食器も厳密には禁忌となる。</p> <p>■魚類 魚は原則ハラールだが、ウロコのない魚＝イカ、タコは禁忌で、甲殻類もそれに含まれる場合がある。</p> <p>■アルコール類 飲酒のほか、調理に使用する料理酒、みりん、酒粕のほか、洋酒等の入った菓子類も禁忌である。アルコール綿も避けた方がよい。</p>
<b>2. 妊娠・出産に関する価値観・行動・風習</b>	<p>■結婚 ムスリムの場合、妊娠・出産には結婚が不可欠である。結婚し妊娠・出産することは強く推奨されている。コーランには1人の男性が4人まで妻をめとることができる<sup>1)</sup>と示されている<sup>1)</sup>。4名はまれだが複数の妻子がいるケースはあり、妻同士の関係性は必ずしも悪くはない。 結婚は両親や親戚にアレンジされたお見合い結婚が主で、女性は父方の親戚との結婚が推奨される<sup>2)</sup>。結婚していない男女間での妊娠・出産は、ムスリム社会では受け入れられていない。男性側からの離婚は可能だが、女性は離婚後3か月間は独身でいるよう定められ、もしその間に妊娠がわかれば復縁（2回まで可能）が望ましいとされている<sup>1)</sup>。</p> <p>■妊娠・出産 コーラン<sup>1)</sup>に「アッラーは、一人一人の女が胎内に宿すものまでご存知」と示され、子どもがアッラーがつくり給うたものと理解されている。結婚・妊娠・出産は宗教上で強く推奨されており、避妊、家族計画、人工妊娠中絶は原則禁忌である（国や地域によって厳しさが異なるため、個別に確認が必要）。妊娠できない女性、男児が産めない女性が差別的な扱いを受けることがしばしばある。ムスリムは、出産後すぐ子どもの左右の耳で「信仰の告白」（親がアッラーのほかには神なし、等の定型句をささやく）を行う。また、出産7日後に名づけと剃髪の儀式を行うため、入院中にあたる場合は調整が必要となる。また、母子への邪視（妬みによる呪いのようなもの）を恐れるため、産後1か月程度は外出や人と会うことを好まない場合もある。</p> <p>■子の性別について 現在でも男児が非常に好まれる（男系社会であり、一族の財産継承は男子が中心であるため）。国や地域、宗派によって異なるが、女子より男子に食事や教育を優先するケースも多い。</p>

3. 育児に関する価値観・行動・風習	<p>コーラン<sup>1)</sup>に「授乳を完全に終わらせたいものは、まる2年間乳を飲ませるがよい」とあり、実際に2歳頃まで食事と並行して授乳を続ける女性も多い。また、男児は概ね12歳頃までに割礼を行う。</p>
4. 高齢者に関する価値観・行動・風習	<p>特別なものはないが、コーランには繰り返し両親や親戚を大切にせよ、と記載されている。</p>
5. 受療および病人のケアに関する価値観・行動・風習	<p>ハディース<sup>2)</sup>に、病人や治療に関する詳細が示されている。</p> <p>■見舞いについて 病人を見舞うことは義務とされているため、多くの面会者が訪れる場合があり、あらかじめ面会のルール等の十分説明が必要である。</p> <p>■同性によるケアへの配慮 イスラーム教では、性別による生活規範や役割分担が明確である（コーランに「神はもともと男と女の間で優劣をおつけになった」「美しいものは人に見せぬよう」等の記載がある<sup>1)</sup>）。7、8歳前後までは男女が一緒に遊ぶ場合もあるがそれ以降は好まれず、女子が初潮を迎えたら完全に分離する。初潮以降の女性は、原則家族・親族以外の男性とは接触しない（目を合わせない、話をしない、触れない等）。このため、受療やケアに関しても最大限同性による実施が強く望まれる。特にイスラーム女性にとっては、診療であっても外国人の男性医師に身体を見られる、触られることは極めて強い禁忌であり、恥辱とされるため、避けるべきである。やむを得ない場合は家族の男性の了承を得るあるいは同席してもらう必要がある。南アジアでは現在でも女性の恥辱を原因とする「名誉殺人」がしばしば発生する。例えば未婚女性が家族親戚、婚約者以外の男性と2人で過ごした等、イスラーム女性として恥と考えられる行為が認められた場合、父親などが女性を殺害するケースが珍しくない。イスラーム女性に対し、家族の男性の了承を得ずに男性医療従事者が触れたりした場合、その時生命が助かっても後日極めて深刻な状況に陥る可能性もあるため、十二分な配慮を要する。</p> <p>■身体を見せる／触れることへの配慮 イスラームは、女性同士であっても肌を見せることを好まない（女子更衣室でも隠して着替える）。清拭や更衣の際には、日本人に対するケア以上に肌が目立たない配慮を要し、でき得れば家族の女性などに依頼する方が本人にとって安楽となる場合が多い。</p>
6. 終末期・葬儀に関する価値観・風習	<p>■死について イスラーム教では、現世（現在の人生）は来世（復活の日）のためのもの、他界した人々は神のそばで生きている等と考えられ<sup>1)</sup>、死そのものは必ずしも恐れない人も多い。終末期の場面では、ほかの宗教同様モスクの指導者をはじめ家族や友人が祈りを捧げる。多くの人が面会に訪れる場合があるため、十分な説明が必要である。</p> <p>■葬儀などについて 遺体は必ず土葬であるため、対応を準備する必要がある（火葬は「罪人として地獄に送られ火に焼かれる」ことを連想させるため忌み嫌われる）。海外で死去した場合、冷蔵／冷凍で本国に送り返し葬るケースもある。また仏教同様7日ごとの法事が営まれる。</p>
7. 服装に関する価値観・行動・風習	<p>■服装について 衣服については、ハディース<sup>2)</sup>に詳細が示されている。前述の通り女性は美しいものとして体を隠すことが義務付けられており、女子は5歳前後からスカーフやショールで特に髪を隠すよう教育され、原則ゆったりした長袖長ズボンで体の線が出ない服装が一般的である。家族親族以外の男性には髪を見せないで、希望があれば危険のない限り病室でもスカーフの着用を可能とすることが望ましい。検査や手術等でやむを得ず既定の検査着等の着用が必要な場合は、十分な説明の上検査／手術室入室までは上着やスカーフを着用させるなどの配慮が不可欠である。一方女性だけの場所では、家族親族以外でもこの規範は適用されない。色の禁忌はないが、人や動物の顔や形のデザインは好まれない（神の姿を描くことが禁じられているため）。</p> <p>■装飾品について 慣習的に金の装飾品が好まれ（財産を金で所持する意味合いもある）、耳・鼻のピアス、ネックレス、指輪、ブレスレット等のほか、アンクレットや足の指輪をしている場合があり貴重品管理の注意喚起と、検査時等の取り外し確認が必要である。また、金歯装着も多いので注意を要する。</p> <p>■お守りについて ネックレス状や、手首や腰に紐状に巻いたお守りを身に着けていることが多い。取り外しできない場合もあるので（切れるまでつけておくもの等）、やむを得ず取り外しが必要な場合は本人や家族に十分説明する。</p>

8. その他の文化・風習	<p>■礼拝への配慮  ムスリムは日の出から真夜中まで(日の出・日没時刻によって変動する)1日5回のメッカの方角(西)を向いての礼拝が義務づけられている。小声で祈りを唱えながら立位・座位を繰り返す(個人差があるが、1回10分前後)。礼拝の前には手足と顔を必ず洗う。礼拝の場所には特に制限がないが、病棟の起床・消灯時間と前後する場合があるため、個別の調整が必要であり、礼拝に使用できる場所(個室でなくても、ついたてで区切られた一画等で、方角がわかれば可)が確保できるとなおよい。なお、金曜は礼拝日で通常男性はモスクで集団礼拝をする(女性は自宅等で礼拝する)ため、午後に礼拝できるようスケジュールの配慮があると非常に良い。</p> <p>■断食について  ムスリムは毎年の9番目の月(太陰暦のため、時期は毎年異なる)の断食が義務づけられている。日中は水分も含め飲食禁止で、日没から日の出前までは飲食が許される。しかし病人は例外として認められるため、個別に相談・調整の余地がある。なお、断食明けは日本のお正月のような特別なお祝いの食事などもあるため、治療に関連する場合は食事指導が不可欠である。</p> <p>■その他  ①コーランの取り扱い:コーランはムスリムにとっての聖書であり、布等に包んで棚の上部に置くなど丁寧に扱い大切にしている。コーランの上に物を置いたり、手荒に扱うことは禁忌である。  ②犬について:イスラーム教では、犬は悪魔の使いとされ忌み嫌われ、犬に触れたら7回手を洗う等の記述もある。犬を飼っている人は、ムスリムの前では飼い犬の話や写真を見せる等は避けることが望ましい。</p>
9. 出典	<p>引用  1) 井筒俊彦訳, コーラン 上・中・下, 1957年, 岩波文庫  2) 牧野信也訳, ハディース イスラーム伝承集成 I～VI, 2001年, 中公文庫</p> <p>参考  日本ASEANセンター、ムスリム観光客受け入れのために。  <a href="https://www.asean.or.jp/muslim/meal/meal2.html">https://www.asean.or.jp/muslim/meal/meal2.html</a> (2022/11/30アクセス可能)</p>

担当者：駒形朋子（公益社団法人東京都看護協会）  
承認日：2023年2月24日